

2022-2023 年度 国際ロータリー第 2730 地区 宮崎県中部グループ 宮崎アカデミーロータリークラブ 会報

第 98 回 例会 2022年 10月 25日

●例会場 宮崎大学附属図書館3階「komorebi」

会長 薬王寺文宏 副会長 成合 修 幹事 安田文彦

■会長の時間 薬王寺文宏 会長



今年度の行事が次々と実行に移されています。

今月は奉仕プロジェクト委員会の2つの行事が予定されています。

まずは先週の土曜日 (10/22) に宮崎県母性衛生学会シンポジウムが開催され、盛会であったと聞いております。(※私は別件が入っていて出席できませんでした m(_)m)今週末 (10/30) には『アフガニスタンの現状』コロキュームが予定されています。是非一人でも多くの会員さんにお越しいただきたいと思います。

そして11月の第2例会は第100回例会を迎えます。この例会は私がわがままを言って、 どうしても会員みなさんに聞いていただきたい外部卓話者をご用意しました。福岡市の立

花高等学校の校長 齋藤眞人様に、福岡にお伺いし直談判して了解いただきました。過去、宮崎北RCで一度 卓話をされています。私もそのときメークアップして聞きましたが、思わず涙がこぼれてしまう感動の話で した。当日はホテルきよたけで昼食付の例会で予定しています。全員出席の意気込みでご用意しますので、 みなさんご出席お願いします。

話は代わります。ちょっと宣伝になりますが、本日から某百貨店さんに於きまして『北海道の物産と観光展』という催事が開催されます。11月17日までの約3週間の開催されますが、鹿児島の本社で行われるこの催事は、全国で行われる北海道物産展催事の中でも群を抜く日本一の売上を誇ります。宮崎は全国5位ということです。北海道から地理的に遠く、なかなか簡単には行けない、北海道にあこがれを持つことが要因だと思います。品目で言えば、昆布の売上は宮崎が一番多いそうです。地方ではまだ家庭でおせち料理を作る習慣が未だに残っていることが要因ではないかと思います。

この北海道物産展の販売員さんが言ってた印象に残ってる言葉があります。ある時お客様が目玉品の1ハイ3,000円の毛がにを見て「私は先日北海道に行って市場でカニを買ったけど、こんな値段では買えなかったわよ。3,000円なんてきっと中身はスカスカなんでしょうね。」とおっしゃったそうです。私も経験がありますが現地の"観光客向け"の市場の物産の値段ってすごく高いんです。それと比べると、この宮崎の地でこんなに安い金額で提供されてると疑いたくもなるかもしれません。でも全国1位と5位の売上を誇るこの百貨店さんの催事に、この北海道物産展を主催する北海道観光協会が間違った商品を用意するはずがありません。良いものを現地価格で買えるのがこの『北海道の物産と観光展』ですから、是非、会期中に宮崎山形屋さんに足を向けてくださいね。

幹事報告 安田文彦 幹事



みなさん、こんにちは。

本日の幹事報告は4点ございます。

- 1 「エンド・ポリオ・サイクリング・チャレンジ2750」支援のお願い 「エンド・ポリオ・サイクリング・チャレンジ2750」として、寄付の依頼が 来ております。ご協力の程よろしくお願いいたします。
- 2 2023年国際ロータリー年次大会【メルボルン大会】 2023年国際ロータリー年次大会【メルボルン大会】のご案内が来ております。 参加ご希望の方は、事務局までご連絡をお願いいたします。
- 3 おとも de メークアップ第4弾

おとも de メークアップ第4弾は「宮崎ロータリークラブ」です。 参加申込メールが間もなく届きますので、ご参加の程よろしくお願いいたします。

4 寄附について

2022 年 10 月 11 日の寄付についてご報告いたします。ロータリー財団が 961 円、米山奨学金が 1,961 円でした。引き続きよろしくお願いいたします。

■入会式 ロウチュウミン会員



この度ロータリークラブに入会させて頂きました Lau と申します。

私は香港出身です。大学卒業後香港で日系半導体部品のメーカーを 17 年間に財務、管理本部の管理職として働きました。2010 年 8 月から日本の本社に転職し、1 1 年間に福岡県北九州に住んでいました。そのときに海外対応の仕事が必要であり、私は毎月 $1\sim 2$ 回くらい海外への出張に行きました。さらに、私は国内外間わず、旅行が好きです。

今まで大体25カ国に行ったことがあります。

今年4月から宮崎大学に新しく着任しましたが、地域資源創成学部の企業マネジメントコースの教員として、国際経営に関する科目を対応しています。

これからロータリークラブのメンバーになりましたから、自分のグローバルな経験を活かし、国際視野でニーズをとらえ、地域社会貢献に尽力したいと思います。まだ、どのような対応でお役に立てるか解りませんが、まずは早く慣れるよう頑張ります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

■各会員からの報告



クラブ管理委員会より

出席担当 瀧伸一 委員

第98回例会出席について、次の通り報告いたします。

・開 催 日: 2022 年 10 月 25 日火曜日

・会員数:37名・ホーム出席:20名・オンライン出席:1名

· 出 席 者 合 計: 21 名 (暫定出席率 56.75%)



プログラム 辻清 委員長

次回例会について

2022.11.8 (火) 12:00~13:00「hidamari」です。

次々回例会について

2022.11.22 (火) 11:30~13:00「ホテル清武」にて第100回例会です。

卓話は「立花高等学校 斎藤眞人校長先生」です。

食事付きとなっております。お弁当形式ですので、受付後、随時食事開始してください。

尚、事前出欠を取っていますが、現在、10名です。100回例会の節目です。

皆さ んのご参加を願います。

地区大会について

11/10~11/12 に地区大会が開催されます。



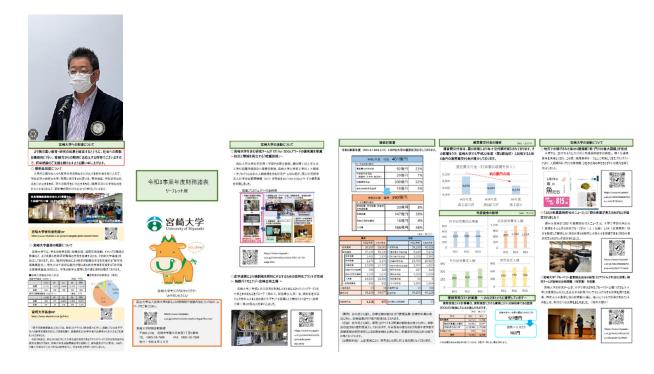
奉仕プロジェクト委員会 勢井由美子 委員長

10月30日アフガニスタンコロキュームのパネリストでもありますアフガニスタン元留学生アーマド・ナズハットさんを

例会にお呼びしました。

アーマド・ナズハットさんは、丁寧な日本語で自己紹介をなさいました。

■宮崎大学「令和3事業年度財務諸表」について 明石良 会長エレクト



■卓話 土屋有 会員



アントレプレナーシップ教育とビジネスプランコンテスト

1. 自己紹介

地域資源創成学部に着任し、7年目となる土屋です。専門は経営情報学(マーケティング、アントレプレナーシップ:起業家精神)であり、2017年からは多くの企業や大学関係者のご支援により「ビジネスプランコンテスト」を統括として取り組んで来ています。

地域資源創成学部の特徴の一つである「実務家教員」として、複数の上場企業の役員や企業経営に携わり、現在も関わっています。具体的なキャリアは下記の通りです。

2020. コミュニティナースカンパニー株式会社 社外取締役 (現)

2020. 株式会社 Smolt (宮崎大学発ベンチャー企業) 取締役 (現)

2019. 株式会社カヤック Living 代表取締役

2013. 株式会社アラタナ (現 株式会社 Z0Z0, 株式会社 Z0Z0 テクノロジー) 取締役

2011. 面白法人カヤック ゲーム事業部長

2002. 株式会社アイレップ 取締役 (学部在学中取締役→上場審査,上場) 等

本日は、先日開催された宮崎・学生ビジネスプランコンテストの決勝の結果及び関連する取り組みについてご報告させていただきます。

2. 国・文科省からみたアントレプレナーシップ教育

政府は2022年を「スタートアップ創出元年」と位置づけ5カ年計画をつくり、アントレプレナーシップ教育とつながるスタートアップ支援を岸田文雄首相が掲げる「新しい資本主義」の中核として積極的に取り組んでいこうとしています。

昨今の目立った動きとしては、2023 年春には新設が 19 年ぶりとなる私立高等専門学校「神山まるごと高専」が民間企業から多額の寄付金を集めて開校される予定となっています。同校は「テクノロジー、デザイン、起業家精神の三位一体の教育を目指す」として、多くの注目と期待を集めています。

文部科学省は、アントレプレナーシップ教育についてはこの 10 年ほど、エッジネクスト等東大・九大などでの教育プログラムの開発に力を入れてきました。文部科学省が取り組むアントレプレナーシップ教育の目指す人材像として、「急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神(アントレプレナーシップ)を備えた人材の創出」としています。大学では、研究成果の活用を含め、スタートアップやスモールビジネス、地域特有課題の解決など、想像したい未来・解決したい課題に応じ、実際に事業を進めていくにあたり必要な様々な専門知識や機会を提供しようとしています。

しかし、大学でのアントレプレナーシップ教育の現状として、文科省が発表したデータでは、全国の大学 598 校のアンケート回答によると、アントレ教育実施大学率は 27%。アントレ教育受講率は 1%、アントレ教育の年間予算がなしと回答しているのは 35%となっており、多くの課題が明らかになっています。また、文科省の科

学技術・学術審議会産業連携・地域振興部会の資料によると、起業家が日本で起業が少ないと考える要因として、「失敗に対する危惧(再チャレンジが難しい等)が37.6%、「身近に起業家がいない」が19.5%、「学校教育(勇気ある行動への低い評価等)」が15%と大きく、挑戦を評価しない社会・大人の存在が課題であると指摘されています。

海外の大学事例として起業家教育で有名なバブソン大学、スタンフォード、シンガポール国立大学、ミュンヘン大学、清華大学での効果的プログラムで挙げられているいくつかのポイントを宮崎大学での教育プログラムとして取り込み、実施している宮崎大学は国内でも注目されてきている状態です。

3. 宮崎大学におけるアントレプレナーシップ教育(地域資源創成学部的視点)

では、宮崎大学での取り組みについてご紹介しますが、その前にアントレプレナーシップ教育について、詳細に紹介させていただきます。宮崎大学も一緒に取り組んでいる、大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援である PARKS のアントレ教育チームでは、「アントレプレナーシップ教育とは、「起業家的」な思考や行動ができる能力を育む教育を指しています。つまり、狭義の意味での「起業家」を育成する教育のみならず、「起業家的」な思考や行動によって、自分のキャリアや人生をより豊かで幸せなものとし、同時に、自分を取り巻く人々や私たちの社会をより良いものへ発展させていくことができる人材を育成する教育」と定義して進めています。

さて、その点を踏まえて地域学部ではどのような教育を行っているかになります。地域資源創成学部は多くの 地域の皆様からのご期待や社会の要望を取り込み、宮崎大学が考える「地方創生人材」の特徴の中に、「地域 社会にイノベーションを起こす力を備えている」、「起業及び地域産業を創出する能力を備えている」をい れ、学部の養成する人材像の就職先イメージの一つに「起業」を開設当時から記載している学部となっていま す。

この学部の動きと合わせて、宮崎大学が取り組む各種プログラム、またビジコンを一つの出口でもあり、通過点として設定し、社会・地域の問題という認識だけではなく、事業企画・開発の資源に変わる課題 (=ビジネスチャンス) として捉える取り組みを進めてきました。

4. アントレプレナーシップ教育としてのビジネスプランコンテスト このビジネスプランコンテストはどのようなものかについても説明いたします。

現在、新たなベンチャーの創出を通じた日本経済の活性化が求められる中、『知の創造』拠点としての大学等には多くの技術・研究成果等が蓄積されています。宮崎大学では、こうしたシーズやビジネスアイデア等をもとに、多くのイノベーション(技術革新)を創出し、地域の活性化に繋げることを目的として、大学生・院生の若者が創造能力とチャレンジ精神を養うための事業計画書(ビジネスプラン)作成の場と、自ら考え解決する能力とプレゼンテーション能力を養成する場を提供します。

- ① 創造能力とチャレンジ精神を養うための事業計画書(ビジネスプラン)作成の場
 - →想像もしたこともなかったビジネスプランを限られた期間の間で作成するという行為、他者に理解され評価される過程が"創造能力とチャレンジ精神を養う"プロセスとなります。
- ② 自ら考え解決する能力とプレゼンテーション能力を養成する場
 - →自らのアイデアをビジネスのルールに落とし込み、そのビジネスプランは、だれの何を解決する手段なのか?を考え尽くし、プレゼンテーションという他者に論理性だけでなく思いを伝えるプロセスを通じて、社会・ビジネスにおける必要な能力を身につける機会となります。

その結果、今年のみやざきビジコンには、単位認定街障害のプログラムに対して6大学1短大延べ191名が参加し、過去最大となる61名37組がビジネスプランを作成してのエントリー数となりました。しかし、決勝進出できたのは8組11名であり、26組50名が2次予選までに敗退し、この敗退のプロセスも教育プログラムの中で設計をしているところです。

過去のビジネスプランコンテストのその後の結果として、第1回 応募 18組 決勝 10組からは、第17回 九州ビジコン 応募 53件のうち8件が宮崎からの挑戦でブランプリを受賞、九経連会長賞、全国大会 文部科学大臣賞(テクノロジー部門大賞)という成果となっています。また、第3回 応募 19組 決勝 8組からは、第19回九州ビジコン 応募 55件のうち9件が宮崎からの挑戦し、NICT賞、優秀賞。全国大会 総務大臣賞の次点にあたる審査委員特別賞受賞しています。第4回 応募 20組 決勝 8組では、第20回九州ビジコン 応募 43件のうち12件が宮崎から挑戦し、グランプリ、九経連会長賞、優秀賞が2件受賞し、全国大会では審査委員会特別賞となっているなど、全国でも高い評価と結果を出している取り組みとなっています。

まとめ

宮崎大学・宮崎県内で取り組むアントレプレナーシップ教育は、「ロールモデルとなる起業家」「コワーキング・スペース」「ビジネスプランコンテスト」を通して挑戦する、挑戦を応援する動きを可視化させ、学生(高校生・大学生)、若手社会人・女性、課題当事者に価値観の変化を働きかけています。その結果として、多様な価値観・経験・視点を資源及びきっかけとし、起業と成長を当たり前の選択肢となるように取り組んでいます。起業家精神は起業を指すだけではなく、組織人にとってのプラスの効果があるとして、多くの地域・起業の方からもご支援、ご期待いただける取り組みと成長してきています。以上、ご報告とさせていただきます。